

平成五年六月十六日提出
質問第一七号

電力会社のプルトニウム利用に関する質問主意書

提出者 長谷百合子

電力会社のプルトニウム利用に関する質問主意書

電力会社は使用済核燃料の再処理委託を行っているが、電力会社の原子炉はプルトニウム利用を前提として設計されたものはない。再処理によって抽出されたプルトニウムを電力会社自身が利用する意味はなく、問題である。次のとおり質問する。

一 電力会社は再処理によって得られたプルトニウムを動力炉・核燃料開発事業団（以下「動燃」という。）に売却しているが、自らの需要がないから動燃に売却しているということではいか。

二 電力会社は英国、フランスに再処理委託をしている。次の量を明らかにしていただきたい。

1 再処理の済んだ分も含めてフランスに輸送済の電力会社の使用済核燃料は一九九三年三月三十一日までの累積で何トンか。

2 再処理の済んだ分も含めて英国に輸送済の電力会社の使用済核燃料は一九九三年三月三十

一日までの累積で何トンか。

三 電力会社から動燃への核分裂性プルトニウム一キログラム当たりの売却単位は、一九八四年のフランスからのプルトニウム輸送では五百二十九万円、今年一月のプルトニウム輸送では百二万円、国内の東海再処理工場からのものは一九八八年が百三十万円、一九九一年では百二十万円とばらつきがある。以下の量、金額を明らかにしていただきたい。

1 東海再処理工場から抽出された電力会社の核分裂性プルトニウムについて、一九九一年十二月三十一日まで、一九九二年十二月三十一日まで、一九九三年三月三十一日までに動燃に売却した累積量はそれぞれ何キログラムで、売却総額はそれぞれいくらか。

2 英国の再処理工場から抽出された電力会社の核分裂性プルトニウムについて、一九九一年十二月三十一日まで、一九九二年十二月三十一日まで、一九九三年三月三十一日までに動燃に売却した累積量はそれぞれ何キログラムで、売却総額はそれぞれいくらか。

3 フランスの再処理工場から抽出された電力会社の核分裂性プルトニウムについて、一九九一年十二月三十一日まで、一九九二年十二月三十一日まで、一九九三年三月三十一日までに動燃に売却した累積量はそれぞれ何キログラムで、売却総額はそれぞれいくらか。

4 一九九一年十二月三十一日現在、一九九二年十二月三十一日現在、一九九三年三月三十一日現在の東海再処理工場、英国の再処理工場、フランスの再処理工場の各施設から抽出された電力会社の核分裂性プルトニウムで、売却せずに電力会社の所有となっていた量はそれぞれ何キログラムか。

四 電力会社の軽水炉でのMOX燃料利用は、一九九〇年代中に八〇万キロワット級の沸騰水型一基、加圧水型一基の合計二基において四分の一炉心をMOX燃料とする利用計画を始めとし、一九九〇年代末には一〇〇万キロワット級の三分の一炉心をMOX燃料とする計画が四基、二〇〇〇年過ぎには八基増えて十二基の規模へ拡大の計画になっている。

- 1 電力会社は英国、フランスにある一九九三年三月三十一日現在の核分裂性プルトニウムを「日本に輸送してからMOX加工する」のと「海外でMOX加工する」のどちらの計画か。
- 2 電力会社の英国、フランスにある一九九三年三月三十一日現在の核分裂性プルトニウム何キログラムを使ったMOX燃料を何年から使用するなどの具体的計画はどうか。
- 3 一九九〇年代央の八〇万キロワット級でのMOX利用計画に沿って、現時点でMOX燃料の製造の契約を締結し、発注した電力会社があるか。あれば、発注した電力会社はどこで、どこの国のどの加工会社（固有の名称）に、何キログラムの核分裂性プルトニウムを使い、何トンMOXの注文か。
- 4 電気事業会計規則上の加工中核燃料明細表にはMOX燃料の記載欄がなく、雑口に記載するにしても数量はウラン総量によることとされており、プルトニウム量の記載欄がない。電力会社がMOX燃料加工を発注した場合、MOX燃料の会計整理はどうするのか。

五 電力会社は再処理のための再処理引当金を積み立てているが、次の金額、量を明らかにして
いただきたい。

- 1 目的使用額は一九九三年三月三十一日までの累積でいくらか。
- 2 1に対応する再処理量は何トンか。
- 3 1の目的使用額のうちガラス固化費用の分はいくらか。
- 4 3に対応するガラス固化となったもの使用済核燃料は何トンか。
- 5 再処理引当金の残高は一九九三年三月三十一日現在でいくらか。
- 6 5に対応する再処理量は何トンか。

右質問する。